【審査結果】

大賞　2 件：

トピック：”　文教ボランティアズの各被災地支援活動報道に対して”

受賞対象：文教ボランティアズ

内　容：東京新聞（3 件）、読売新聞（2 件）、朝日新聞（1 件）、神奈川新聞（1 件）

受賞理由：湘南キャンパスの国際学部生を主体とする文教ボランティアズは、これまで国際協力のボランティア活動を行なってきましたが、東日本震災の発生に伴い、本年度は国内被災者支援活動に力をいれています。この活動が新聞社の目にとまり、文教生の社会的貢献活動が報道されました。これらの記事はさまざまな注目を浴び、大賞の主旨にあうものとして最も評価されました。

トピック：”東日本復興支援学生本部の諸活動の報道に対して”

受賞対象：文教大学東日本復興支援学生本部

内　　容：福島中央テレビ（2 件）、NHK テレビ（1 件）、NHK ラジオ（1 件）、毎日新聞（1 件）、埼玉新聞（1 件）、東京新聞（1 件）

受賞理由：　越谷キャンパスの受賞対象グループは、これまで越谷キャンパスには無かった学生主体の復興支援のボランティアグループとして、震災を機に立ち上がったものです。学生の自主性を中心に活動することが主な目的であり、新聞報道や放送番組を意図したものではもとよりないものですが、結果的にニュース報道として注目されました。これらの報道も、まさに大賞の主旨にあうものとして、上記のものと同様に最も評価されました。

審査員特別賞　2 件：

トピック：”伝統の弁論大会を取り上げた報道に対して”

受賞対象：文教大学付属小学校

内　　容：朝日小学生新聞（1 件）

受賞理由：文教大学付属小学校は、30 年以上にわたり弁論大会を続けており、このほど、写真付きで大きく新聞報道されました。また独自に取り組んでいるスマイルプロジェクトも雑誌に掲載されました。これらの記事は文教大学学園の一員として誇りを喚起するものであり、特別賞を授与することとなりました。

トピック：”茅ヶ崎・文教弁当プロジェクトの報道に対して”

受賞対象：国際学部横川ゼミナール

内　　容：東京新聞（1 件）、日本経済新聞（1 件）、毎日新聞（1 件）、神奈川新聞（1 件）、朝日新聞（1 件）、読売新聞（1 件）、産経新聞（1 件）、日本農業新聞（1 件）　※掲載日順

受賞理由：受賞対象グループの活動は、地域社会と大学のつながりを体現するものであり、地元茅ヶ崎市と文教大学の存在やイメージを相互に向上させる活動でした。この活動に関する新聞報道は、文教大学湘南キャンパスと茅ヶ崎市の関わりの活動を社会的に発信するものとなり、特別賞に値するものとして判断さました。

【審査講評】

文教大学学園の教職員・学生・生徒の社会への発信力を高める起爆剤とすることを目的とした「パブリシティ・オブ・ザ・イヤー大賞２０１１」の選考をさせていただきました。昨年度から始まったこの大賞授与は、この一年間（2010 年９月から 2011 年 10 月まで）に、文教大学学園の名前が出たマスコミ報道の中から、そのニュースに接して私たちが誇りをもったものを選び、それに関わった人や団体を表彰する制度です。今年は、推薦メールをいただいた４つのマスコミ報道を含む合計４９件のニュースから、大賞と審査員特別賞を選考させていただきました。

まず「パブリシティ・オブ・ザ・イヤー大賞２０１１」の審査は、４９件の候補の中から、３つの評価基準（A.社会的影響力（広告換算額を含む）、B 文教大学学園のブランドを高めた寄与度、C 文教大学学園にふさわしいニュース度）に従って、点数評価の総合点の高いニュースを１０件選出しました。その結果、他を引き離して、結論として大賞に選出された２件が断トツに（ほぼ満票に近い）高得点を獲得していました。この最上位２件に関して、大賞の表彰対象が１件という基準も含め、精査検討したところ、審査結果としては大賞２件を全会一致で、決定いたしました。

大賞２件は、期せずして、2011 年を象徴する３・１１の東日本大震災に文教大学の学生たちがどのように対応したかに関わるものでありました。越谷校舎・湘南校舎それぞれの学生たちが、独自に行なった活動が、ニュース報道になった主要紙の新聞記事および放送番組は、この大賞の主旨・目的に最も適ったものであり、表彰する審査会も全員一致の結論でありました。

次に「審査員特別賞」（複数）としては、大賞とは別の選考視点から、審査員で協議した結果、本学園に関わるマスコミ報道として最もふさわしいものとして、受賞した２件を選考結果といたしました。

一つは、学園全体からの表彰という視点から、文教大学付属小学校の「伝統の弁論大会」をとりあげた新聞記事およびスマイルプロジェクトに関する雑誌記事が、特別賞に値するニュース報道として選定いたしました。文教大学学園は、大学だけでなく付属幼稚園から大学院までで構成されている学校法人であり、大学以外の学園組織もその活動を社会に発信していることを表彰したいと考えた次第です。

もう一つは、国際学部の横川ゼミナールの行なった「茅ヶ崎・文教弁当プロジェクト」に関する新聞報道を選定いたしました。このプロジェクトは、茅ヶ崎の地元業者との共同プロジェクトであり、地元茅ヶ崎市のイメージ向上に大学も共同に関わっていることを示すものです。地元茅ヶ崎市の中にある大学として文教大学を特徴づけていることを、具体的なフードプロジェクトとして市民・学生に周知している点が評価されました。

今年の審査をしてみて、昨年の３５件から今年の４９件と単純に件数が増えたことを見ても、ニュース報道等を通した文教大学学園の名前の露出度が徐々に高くなっていることを感じます。それも昨年度と同様に、地域社会とのつながりで行なった活動がニュース報道されるケースが多くあることを審査員としても誇らしく思います。

今回の大賞 2011 の企画に、４件の推薦メールをいただいた教職員・学生さんを初めとして、ニュース報道の対象となるさまざまな活動を行なっている個人・グループに、感謝の念を表して、審査講評を終わらせていただきます。

2011 年 11 月 9 日

パブリシティ・オブ・ザ・イヤー大賞 2011

審査委員長　椎野信雄

【受賞団体の紹介】

文教ボランティアズ

2001 年に国際学部の学生有志が国際学部国際ボランティア委員会の指導の下に結成された組織で、これまでコソボやボスニア、東チモールなどの国際紛争の復興地に出かけるのに加えて、2004 年の新潟中越地震をはじめイラン、インドネシア・スマトラ沖、中国四川省、ハイチなどでの地震被災者のための支援募金活動も展開。東日本大震災では、石巻市や南三陸町などで様々なボランティア活動を継続して行ってきました。

文教大学東日本復興支援学生本部（BRO）

2011 年 5 月に文教大学越谷校舎の学生有志によって設立された団体。学生委員会直属の団体で、2014 年 3 月までの 3 年間を活動期間としています。越谷校舎の学生を巻き込みながら、越谷市民・他大学のサークルや学生団体・ＮＰＯなど学内だけでなく学外の団体とも協力して東日本大震災の復興を思う想いを、形にする活動を展開しています。

文教大学付属小学校

1951 年設立。東京都大田区石川台に校舎があります。今回報道で取り上げられた弁論大会は、30 年以上毎年実施しており、小学校で評価の高かった弁者は、旗の台の付属中学校の弁論大会で発表する機会もあります。

文教大学国際学部横川ゼミナール

指導教員は横川潤准教授。国際学部国際観光学科所属。観光と食のマーケティングがテーマ。ゼミでは、マーケティングの理論を、実体験を通して学ぶことを重視しています。